令和3年度　学校評価総括表　伊丹市立稲野小学校

教育目標	人間尊重を基盤として　豊かな心と健康な体をもち　主体性・連帯性のある子どもを育てる　ーいきいき なかよく のびのびと 笑顔あふれる 稲野小学校ー
重点目標	・わかる授業・楽しい授業の実現に向けた授業改善に取り組む。 ・主体性を育む「ねらい」の提示・理解を深める「よりかえり」活動を工夫していく。 ・思考を深めるために、意図的にペア・グループ活動を取り入れていく。 ・「～したい」と一人一ひとりが主体的に取り組むことができる授業づくりを進める。 ・「話す力」向上に向け、系統的に言語活動に取り組む。 ・課題を明確にし、目的意識を持たせることにより、「聴く力」をつけていく。 ・気持ちのよいあいさつができるように取り組む。 ・仲間づくりや相談しやすい環境づくり、関係機関との連携を図っていく。 ・計画的、継続的に体力づくりに向けた授業づくりに取り組む。 ・タブレットを中心にICTの効果的な活用を図り、わかりやすい授業をすすめる。 ・ユニバーサルデザインの授業づくりをすすめる。 ・保護者、地域に対し学校の取り組みがわかるよう情報発信に努める。

項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	基礎・基本の徹底と授業改善	・基礎的、基本的な知識、技能を習得させる。 ・子どもたち一人ひとりの個性や能力に応じた教育を推進する。 ・個々の教師の資質を向上させる。	・朝学習（読書・視写・漢字・計算・スピーチ）の時間を確保する。 ・反復練習のためのプリントを作成・活用し、基本事項の反復練習をする ・継続的に本読みに取り組ませ、適切に評価することにより理解につながる読みの力をつけていく。 ・子どもの考えによりそい子どもひとりひとりが安心してすごせる居場所作りに務める。 ・めあては課題に対してもこどもたちの疑問をめあてとして子どもたちの主体性を伸ばしていくように する。 ・校内研究授業を行い教師の資質向上に努める。 ・校内研修の枠を広げ、自主的に授業公開を行い、互いに見合う機会を増やす。 ・パワーアップ研修などの より具体的な研修を行い、個々の教師の資質を向上させていく。 ・どのように振り返るか学年・学校全体で共通理解を図る。	・朝学習の時間に基礎基本の 学習を進めることができる。 ・反復練習により、既習内容を 確実に身につける。 ・国語の本読みを毎日続け、つまらずに読むことができるようになる。 ・わからないことを自分から質問できるようになる。 ・児童のアンケートの「学習でわかりやすいこと。先生に質 問しやすい」の項目で、肯定的評価が70%以上になる。 ・各学年授業を公開し、授業研究に努める。 ・パワーアップ研修を年間4回程度行う。 ・全ての教師が、年間10回以上授業を見る。	B	・朝学習の時間にすることを曜日ごとに決め、全校で取り組み。基礎基本の力をつけることができた。 ・反復練習によって、基礎基本の力を身につけることができた。 ・子ども一人ひとりをよく見ることで、安心できる場所づくりをしたり、学習へのつまづき発見し対応したりすることができた。 ・児童のアンケートの「学習でわかりやすいこと。先生に質問しやすい」の項目で肯定的評価が70%を少し下回った。 ・研究大会を開催し、今までの研究の成果を発表することができた。 ・感染対策を考えながら、各学年の授業公開し授業改善に努めることができた。 ・パワーアップ研修を年間4回行うことができた。 ・研究授業を含め、年間10回授業を見ることができた。	・これからも引き続き、毎日の積み上げを意識して基礎基本の力をつけるため取り組む必要がある。 ・今後も基礎基本の定着を図るため、継続的に反復練習を行う。 ・1年間を通した取り組みによって、子どもたちの様子をつかむことに努めたが、これからも継続して取り組む必要がある。 ・間違いを許す、温かいクラスをくらげけ、わからないことを伝えられるようにする。 ・今までの積み重ねの発表をすることができたが、今後更に子どもたちの力をつけるために研究課題を明確にして、継続的に取り組む必要がある。 ・引き続き、研究授業、パワーアップ研修を行っていく。	・基礎基本は大切なので反復練習等にも継続して取り組んでほしい。 ・家庭学習を確実に定着させ、習慣化することが大切である。 ・漢字検定が2年連続でできなかったので、何か漢字習得のモチベーションがアップするような取り組みを考えたい。 ・ICT機器の積極的な活用で成果が期待できることもあると思う。 ・子どもと話せるパイプを作ることや、話を聞くことができる時間を作ることが課題である。休み時間に子どもと一緒に遊ぶことも1つであると考える。 ・研修への継続的な取り組みを願いたい。課題を明確にし、進捗状況が見えるようなものにしていただきたい。 ・学校評価アンケートで「授業がわかりやすくて楽しい」の項目で肯定的評価が少し減ったことが気になる。 ・先生によって教え方に差が出ないようにしっかりと連携を取ってほしい。
	思考力・判断力・表現力の育成	・「読む力」を向上させる指導法、教材を研究する。 ・「話す力」を向上させるための話し合いの形態を身につけさせる。 ・「聞く力」を向上させる。 ・「書く力」を向上させる。 ・ズレを意識し、子どもたちに主体的に考えさせる方法を研究する ・児童一人ひとりが主体的に学習に取り組む態度を育てる。	・教材の本文を大切にして読ませる。 ・話したいタイミングでペア、グループ学習の場を設定する。 ・継続的にスピーチの活動に取り組む。 ・教科を限定せず、様々な場面でスピーチの活動に取り組む。 ・聞いた後に質問をして、聞いていた内容を確認する。 ・自分の考え、友だちの意見を聞いて、変化したことを発表させる。 ・自分の考えを持たせ、それを文に表す学習に取り組む。 ・学習でわかったことや振り返りを取り入れ、学習を積み重ねる。 ・ズレが起きる場面を予想し、課題設定を行う。 ・学習課題を工夫する。 ・子どもが引きつける魅力的な課題設定を行う。 ・自分たちの問いが生まれる課題設定を行う。 ・考えのズレからめあてを決め主体的に学習に取り組めるようにする。 ・子どもたちのズレを教師がしっかりと気づき全体で共有する。	・本文を根拠として読み取ることができる。 ・友だちの考えと比較しながら、自分の考えを深めることができる。 ・課題に対して自分の力や友だちと協力して解決しようとする姿が見られる。 ・月に一度は、クラス全員の前でスピーチをし年間で継続して行うようにする。 ・スピーチの到達目標を参考に活用していく。 ・「聞いていなければならない状況を作り聞くことに意識をさせるようにする。 ・友だちの話の内容をしっかり聞き、理解することができる。 ・友だちの意見と自分の意見を比べることができる。 ・自分の考えを持ち、文に表すことができる。 ・学習でわかったことや振り返りを文に表すことができる。 ・主張・根拠・理由を明確にして発表できる。 ・自分の考えをもつ ・ズレから生まれた子どもたちの「考えたい」を大切に授業作りを行う。 ・課題に対して自分なりの考えを持つことができる。 ・「～したい」という主体的な態度で課題に向かうことができる。 ・児童のアンケートの「授業はわかりやすい」の項目で肯定的評価が90%になる。また、保護者からの肯定的評価が90%になる。	B	・本文の言葉に着目して読み取ることができた。 ・自分の考え、根拠、理由をもって話すことができた。 ・コロナの影響でペアやグループ学習を十分に行うことができなかったが、行った際には、友だちと協力して取り組むことができた。 ・スピーチ活動では、継続的に取り組むことができた。 ・友だちの意見と自分の意見を比べながら聞くことができた。 ・聞いた後に質問しようと意識して聞くことができた。 ・自分の考えを文章にまとめて書くことができた。 ・学習でわかったことや、振り返りを単元の中で必要なときに取り入れ書くことができた。 ・ズレが起きる課題設定を考えることができた。 ・子どもの考えたことをめあてとして、主体的に取り組むことができた。 ・ズレが起きる課題設定を工夫しすることで、子どもたちの「～したい。」という気持ちを引き出し、主体的に学習できる「問い」をもつことができた。 ・児童のアンケートの「授業はわかりやすい」の項目で、肯定的評価が90%を下回っていた。また保護者の結果は90%を上回っていた。	・引き続き、本文の言葉に着目し、思考を深めるような発問を仕掛けていく。 ・ペアやグループ交流以外にクラスで共有する時間を取るなどと工夫して授業を組み立てていく必要がある。 ・引き続きスピーチ活動を取り入れていく。 ・意識して「聞くこと」はとても難しいので、意識できるような場の設定や取り組みなど積極的に取り入れ教師自身が継続して取り組む意識が必要。 ・振り返りの仕方など学校で共通したものを提案する必要がある。 ・書く時間を確保する。 ・様々な授業でズレを意識して課題設定することができたが、教科ごとのズレについて深く研究していく必要がある。 ・ズレが起き主体的に学習していけるように工夫をしてきたが、これからも子どもたちの目線にたち、子どもたちの「～したい。」を引き出す授業作りを継続していく必要がある。 ・子どもが授業を理解できたと実感できるよう、学びに価値付けをし自信をもち学習に臨める力をつける。	・「聴く力」「書く力」「話す力」「読む力」の更なる向上を図ってほしい。 ・ペアやグループ学習等から子どもたちの意見を集約し、どの程度理解が深まったのかを確認できるように取り組んでほしい。 ・子どもたちが自信を持って学習に取り組めるための手立てや支援が必要である。 ・友だちの意見を聴いて気づくことや、新たな発見ができるのは、とても良いことだと思う。これからも「聴く」力の向上に取り組んでほしい。
	読書活動の推進	・読書活動を充実させ、語彙力・読解力・思考力の獲得を図る。	・「読書の記録」を書く時間を設定し、活用する。 ・読み聞かせの時間を増やす。 ・子どもたちのニーズを把握した上で、図書館の本を充実させていく。	B	・児童アンケートの「読書をするのが楽しい」の項目の肯定的評価は85%以上であるが、6年生のみ低かった。 ・低学年、中学年の児童は概ね、1週間に2冊以上本を読めていたが、高学年は図書の時間が隔週であることもあり、2冊程度としたことで概ね達成できた。	・引き続き、児童が楽し読書ができるような環境を整えたり、イベントを企画したりする。 ・高学年が読書に興味が持てるような本を増やす。 ・図書ボランティアの方のイベント企画により、図書室に来る機会が増えた。	・読書がより楽しくなるような取り組みの改善策を立てて取り組んでほしい。 ・読解力の向上につなげてほしい。
豊かな心・健やかな体	豊かな心を育む道徳教育・情操教育の推進	・豊かな心を育む道徳教育の推進	・実生活に合った道徳、人権教育の授業に取り組む。 ・教科書（あかつき）を中心にして、「こころはばたくなどの心シリーズを十分に授業で活用する。 ・「月目標」を設定し、全児童、全職員で取り組む。 ・冒険教育に取り組む。	B	・他人に対しての「思いやり」と 自分の「あきらめない気持ち」をもって学校生活をおくることができる。 ・学期に1回は冒険教育を行い、子どもたちに協力することの大切さを学ばせる機会をする。	・学校間、町の学校長の話や日頃の授業等をもとに思いやりの心を持つことを意識づけることができた。また、今年は学校行事が復活したこともあり、クラスで目標を持って取り組むことができた。 ・今年はコロナ禍の中で密を避けるため、また投稿の老朽化などで、十分なスペースの中での冒険教育は難しかった。 ・月目標を設定することで、意識から意識することができた。	・思いやる心については、引き続き学校間・町や日ごろの授業などで意識できるよう取り組んでいく。「あきらめない気持ちは」学校行事や日々の授業などの取り組みを通して、継続的に指導していく必要がある。 ・冒険教育は施設老朽化と長引くコロナの影響で今後も実施が困難なことが予想されるので、代替的な取り組みを検討する。	・コロナ禍で難しい中、昨年度から創意工夫された取り組みや努力を次年度に向けて継続されることを願う。 ・「いなのつ子親子でがんばるカード」を発行し、早寝・早起きなど、基本的な生活習慣の見通しを持ってもらう機会を作ったので継続していきたい。
	豊かな心を育む情操教育の推進	・豊かな心を育む情操教育の推進	・音楽会・図工展の活性化 ・低学年への音楽・図工の専科指導 ・「今月の歌」の取り組み ・作品等の廊下掲示 ・ICT機器を利用した、情操教育の充実	B	・音楽では、コロナ禍で合唱やリコーダー、鍵盤ハーモニカを吹く機会が少なくなったが、昨年度の経験を基に代わりにできることを多く取り入れて演奏活動を充実させることができた。 ・図工展では2カ所に分散したことによりお染対策になった。学級間隔のため会期を延長して鑑賞教育のねらいを達成できた。今後、児童も大幅増に対応し、展示場所の確保が課題である。 ・図工全般としてはコロナ禍においても表現活動、鑑賞活動の充実がはかられた。	・コロナ禍が続くと想定し、過去の音楽会とは違う形での開催、リーダーの飛沫が抑えられるカバーやホースの使用等を検討する必要がある。・図工の、より日常的な発展的な課題の研究と共通理解のための研修の機会を持ちたい。児童数の増加を見越し、今後も石小ホールでの展示を検討したい。夏休み作品展のありかたも同様に検討したい。	・情操教育は豊かなかつ創造性を育む上で大切である。 ・児童会活動や異学年交流により、思いやりの心を育てたい。
	いじめへの対応 問題行動への対応	・いじめの未然防止に努める。 ・いじめへの早期発見、早期対応を図る。	・日記やチェックシート等を活用し、子ども一人ひとりの状況とその変化を継続して把握する。 ・子どもと一対一で懇談する時間を設定する。（懇時） ・毎日、児童のよいところを見つけてほめる。 ・休み時間の様子を把握する。	B	・「なやみや不安があるとき、だれかに先生や友だち・親などに相談できる」の項目で、肯定的評価が80%以上になる。	・「相談できる」に対する肯定的評価は、78%→77%とほぼ横ばいである。目標の8割には届かなかったが、関係の分断を余儀なくされているコロナ禍において、8割に迫るこの数字は一定評価できると思う。 一方、認知件数の年間総数は3件減っている(37件→34件)。これはアンケート終了後の丁寧な聴き取り、その後の指導等が実功したものと考えられる。この結果については担金で共有した後、職員会議で周知を図った。しかし、担金段階で十分に情報共有ができていなかったと思う。	アンケートで把握した事例については、丁寧に関係聞き取りを行い、「いじめ認知」の判断に迷う場合は、必ず学年や生徒指導担当に相談する。その際、そうした情報を学年で十分に共有しておく必要がある。いじめど「認知」された事案の中で、必要があれば、「いじめ対策委員会」を開催し、改善策を講じる。	・話しやすい環境が必要なので、平素から学校・保護者との連携を図り、児童の居場所づくりと対話からの声を聴く力を持ち取り組めていただきたい。 ・いじめられたり不安を抱いたりした子どもが相談しやすい先生であってほしい。 ・内容によっては専門家の協力を得て心身ともに元気な子どもに成長させてほしい。 ・子どもたちの健全育成のために、今後も学校、家庭、地域が連携し
	不登校への対応	・不登校傾向児童への早期対応を図る。	・保護者、担任、学校カウンセラー、SSWとの連携を深め、児童への働きかけを行う。 ・担任だけでなく、学年や全職員で情報共有し、共通理解を図る。 ・夏季研修会のテーマ「不登校」とし取り組む。	B	・早期対応に努め、不登校児童を出さないようにする。	常駐していた相談室担当に替わって教員で輪番体制を組んでみたが、来室者は激減した。11月後半より市費の担当者が常駐が始まり、来室できる子が増えた。現在は2名が来ようになっているが、現時点でほぼ全欠も4名いて、何らかの働きかけが必要である。	・市費担当者の継続を市教委に要望する。 「相談室担当」を「生徒指導担当」とは別に校務分掌表に位置づけ、下記の仕事をする。 ①市費担当者との連絡調整 ②ソフト表及び連絡ファイルの作成 ③出欠連絡の確認と掲示	・学校、保護者の連携を図り、改善策に基づき次年度に取り組んでほしい。 ・早期発見、早期対応が大切である。 ・話をよく聞き気持ちを受け止め寄り添い解決に向けて関係機関と連携していくことが大切であると思う。
	子どもの健やかな体づくりの推進	・自らすすんで体力を向上させようとする意欲を育てる。	・体育施設の割り振り方の工夫や、学習内容を系統立てた「がんばりカード」などを用いて体力の向上を図る。 ・「わくわく業間タイム」を充実させる。 ・スポーツバッチの取り組みを保つ。 ・「パワーアップタイム」を充実させる。	B	・学年に応じた「がんばりカード」で自分の伸びを記録し、設定した目標を達成する。 ・全員すすんで外で運動する ようになる。 ・全てのクラスで、授業の初め5分間を体力向上の取り組みに充てる。	・昨年度に引き続き、複数種目の「がんばりカード」・サーキットトレーニングの資料をデータ作成することが出来た。 ・3密を避けるため「わくわく業間タイム」は実施出来なかった。 ・スポーツバッチの取り組みは実施したがコロナ状況下において子どもの体力低下が感じられた。	・引き続き「がんばりカード」を作成する。 ・コロナ状況下でも子どもたちが進んで運動に取り組むことが出来る取り組みを実施していく。	・コロナ禍で体力低下が見られると思うが、作成した資料データを基に より一層の取り組みをお願いしたい。 ・身体作り、健康はとても重要であり、学力向上にも影響すると思われるのでぜひ、取り組んでいただきたい。 ・コロナ禍での体力低下が心配である。業間休みや校庭開放なども利用して、楽しみながら体力向上
開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信 「信頼される教師の育成」と「信頼される学校づくり」を推進する。	・家庭と学校をつなぐため、学校情報を積極的に発信する。 ・「学校だより」「学年通信」を充実させ、学校の情報を積極的発信する。 ・保護者からの相談や質問に素早く丁寧に対応する。 ・地域の行事にすすんで参加する。	・ホームページを通して学校情報や学年からの情報を積極的に発信する。 ・「学校だより」「学年通信」を充実させ、学校の情報を積極的発信する。 ・保護者からの相談や質問に素早く丁寧に対応する。 ・地域の行事にすすんで参加する。	B	・週に1回以上ホームページを更新し、日常の学校生活を伝える。 ・保護者アンケートの「学校の教育方針や行事・活動の様子を知っている」の項目で肯定的意見が90%以上になる。 ・保護者アンケートの「先生に、子どものことを相談できる」の項目で肯定的意見が85%以上になる。 ・「夏祭り」「ふれあい文化祭」など地域の行事等に教師がすすんで参加する。	・昨年度同様、コロナウイルスの影響で学校行事が縮しかったため、毎日ホームページの更新をし、学校生活の様子を発信した。 ・保護者アンケートの「学校の教育方針や行事・活動の様子を知っている」の項目で肯定的意見が88%と目標に達しなかった。 ・保護者アンケートの「先生に子どものことを相談できる。」の項目では、肯定的意見が94%と目標には達しなかったが、前年度の81%より上昇している。 ・「夏祭り」は今年度も中止となったが「ふれあい文化祭」にはソーラン隊やコミッククラブが参加し、日頃の取り組みを展示発表した。	・来年度も感染状況等を見極めながら、行事実施について検討していく必要がある。 ・ホームページの更新をし、学校生活について知っていただく機会を増やしていく。 今年度は、コロナウイルス関係での お知らせやお願いが多かったが、学校での様々な教育活動の情報も随場的に発信し、保護者アンケートの「学校は保護者の願いに応えている」の項目で肯定的意見90%以上を維持したい。	・ホームページでの学校情報の発信を継続して実施願いたい。 ・ホームページの更新や学校だよりの発行は、学校や子どもたちの活動状況が よく分かって良いと思う。 ・ホームページや「学校だより」で学校の様子を知ることができてすごくありがたい。今後も継続して、家

自己評価の基準　**A**：目標を上回った　**B**：目標どおりに達成できた　**C**：目標をやや下回った　**D**：目標を大きく下回った